

700
1
2143

二三九

二百三十九册

五册之内

伯耆民談記

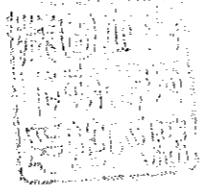
12706

11426

伯耆民談記目録

卷之第一

- 一 國名由來の事
- 一 六郡配分由來の事
- 一 六郡村屋座跡の事
- 一 赤と石宮の事
- 一 卷之目録
- 一 赤子由來の事
- 一 附より村河大谷中河海海の事
- 一 海池領士の事
- 一 倉吉由來の事



44. 7. 26

はるるの谷宿へ生く藤子ゆを授めし海舟へ沈み重鎮と
是を深きちと蛇蝎の毒枝に附く生る藤子如くありと
かや其外種々の毒物因仙り毒のハいふよ及ま行善く
り如の利便ありしも此節に及びしもさしこてもあり
なり

皆生住士のゆ

皆生住士のいふは皆生ゆの正す城尾山城の住人の家人也
寛永十年九月九日山陽の三ノ宮に下りて常吉寺に居り
是より依る家の地には是れ徳と家の中は諸士各地に
前より中より住士守りて其に領主是尾住可成
利りぬに移家と成り城に住するより改より久し住る

是を構

無福ら、懸望して領家の傍に居住する所不世此人皆
生士と称す也西の政ハ米子後新よりして其せしむる
の其士和名七人あり其ゆ^{ミカノ}其賢者十人ハ中江の近江の
甲子市村に居住し其ゆ^{ミカノ}其令其年と住する所の権衣服
類ハ板屋赤屋定丸氏あり是より中村定一ハ旗本の中
村家西純の浪守一年久しして此地、止まり住る
今七士一團の割りふの時分は前住望に権と令知の事
を懸して配賦するに由り田地の所領多かりて其田
とかや柳のを上げり又近^御目角といふ原の長井市
長吉といふ士居り是ハ譜記に人たるを程申す